



当院は『日本消化器病学会認定指導施設』『日本消化器内視鏡学会認定指導施設』です。

○消化器内科 勤務医師紹介

役職	医師名	卒業大学名	卒年	取得資格及び得意分野
部長	古志谷 達也	鳥取大学	H 6	医学博士(京都府立医科大学)、日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・近畿支部会評議員、日本消化器病学会専門医、日本消化管学会胃腸科認定医、日本消化器がん検診学会認定医
医長	婦木 秀一	名古屋大学	H 10	日本内科学会認定内科医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、日本ヘリコバクター・ピロリ学会認定医
医長	中野 圭明	大阪医科大学	H 11	
医員	梶田 昌隆	関西医科大学	H 21	
医師	市川 寛	京都府立医科大学	S59	日本内科学会認定内科医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本消化器病学会専門医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本抗加齢医学会専門医 日本病態栄養学会認定病態栄養専門医・指導医 日本病態栄養学会認定NSTコーディネーター 京都府立医科大学特任教授
医師	森 敬弘	京都府立医科大学	H5	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本消化器病学会専門医・指導医・近畿支部会評議員 日本消化器内視鏡学会専門医 日本肝臓学会専門医・西部会評議員 日本超音波学会専門医 がん治療認定機構認定医 日本医師会産業医 人間ドック健診情報管理指導士

※他、非常勤医師 複数名あり

◎当科の特色

当院の消化器内科は診療科として独立しており、担当する疾患は消化器疾患が中心となり、ほぼ専門領域に特化した形で診療することが出来ます。

検査については、上部消化管(食道・胃・十二指腸)、下部消化管(大腸)、ERCP(胆・膵)の各種内視鏡検査に加えて、超音波内視鏡、カプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡検査を随時施行しています。併設の健診センターでは、胃X線(透視)検査の代わりに胃内視鏡検査を選択でき、経鼻内視鏡検査も可能となりました。治療においては、内視鏡的止血術、早期消化管癌に対するEMR/ESD、EST、胆道ドレナージ術、ステント留置術、肝癌に対するPEIT/RFA等を行っています。

胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍や胆嚢結石など手術を必要とする場合には、診療科の垣根なく、外科とのスムーズな連携を行っています。

現在消化器科は5人の常勤医と、非常勤医にて診療を行っており、消化管、肝、胆、膵の領域において、各医師が個々の専門分野を生かしながら診療を行っています。日本消化器内視鏡学会指導医1名、同専門医2名、日本消化器病学会専門医3名、日本肝臓学会専門医1名が所属しており、研修医、専攻医の診療指導にも力を入れています。関連する大学は京都府立医科大学、関西医科大学となりますが、半数の方が一般公募にて入職されておりますので、学閥を感じることなくご勤務頂けるのが特徴です。

◎勤務医からのコメント

当院の消化器内科では、一般的な内科疾患とは別に、ほぼ専門領域に特化して診療ができます。当科では研修認定を受けており、幅広い領域で診療を行うことができる為、消化器内科としての経験と症例を積んで頂くには良い環境だと思います。また違う観点より、将来の為にあえて一般的な内科診療の担当も希望される方があります。その際には個別に希望を伺い、勤務内容を調整しています。この柔軟さは勤務医師よりやりたいう事に取り組めると定評があり、当院の特長の一つとなっています。



消化器内科 部長 古志谷 達也 医師

◎勤務状況はいかがですか？

外来は予約を中心に週1~2枠程度を担当します。外来の患者数は投薬や再診を含め30~40名程度が平均です。病棟は主治医制で、医師によりばらつきはありますが、平均して10名程度の担当となります。内視鏡検査は隣接する健康管理センターの受診者もカバーしており、4列の体制で月曜日から金曜日まで、毎日行っています。1日の平均として午前中は上部を20~24例程度、午後からは下部を8~10例程度と内視鏡治療を行います。当院の内視鏡検査室では種類の豊富な機材が揃えており、スキルを存分に発揮して頂ける環境を整えています。また、毎日一人のフリー番を設け、個々のルーチン業務をサポートする体制を構築し、負担軽減に努めています。研修医の指導などもフリー番がメインに対応しています。

◎当直やオンコール対応は？

当直は他の内科医師と同様、月に2回程度です。オンコールは待機当番制をとり、常勤医師5名のローテーションで対応しています。夜間は当直医師のサポートがあることより、専門性の必要な症例についての呼び出しとなります。神戸市北区の救急は輪番制となっており、月に3、4回の頻度にて二次救急輪番が回ってきます。輪番以外の日については、かかりつけ患者様の対応がメインとなります。その他、Walk inの患者様もありますが、電話で問合せを頂いた上で受け入れています。

◎求める医師像とは？

これまで培ってきたスキルを生かし、新しい分野に積極的に取り組みたい方、専門的な症例経験を増やしたい方には良い環境といえるでしょう。学閥もなく、診療科の垣根を感じさせない他科との連携もスムーズな勤務環境です。募集する医師の年齢は問わず、研修医からベテラン医師までを幅広く募集致します。

◎症例数(2014年度)

上部内視鏡検査 年間5153例
大腸内視鏡検査 年間1901例
内視鏡的上部消化管早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術38例
内視鏡的大腸ポリープ切除術・粘膜切除術369例
内視鏡的消化管止血術(上部/下部)101/102例
内視鏡的食道静脈瘤結紮術(EVL)10例
内視鏡的食道・胃静脈瘤硬化療法(EIS)1例
内視鏡的消化管バルーン拡張術(EBD)13例
内視鏡的消化管異物摘出術9例
上部消化管(食道・胃・十二指腸)ステント留置術11例
大腸ステント留置術15例
内視鏡的逆行性胆膵管造影(ERCP)200例
内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)97例
内視鏡的胆道結石除去術79例
内視鏡的逆行性胆道ドレナージ術(ERBD)62例
内視鏡的胆管ステント留置術26例
経皮経肝胆管ドレナージ術(PTCD)12例
経皮経肝胆嚢ドレナージ術(PTGBD)／
穿刺吸引術(PTGBA)約18例
経皮経肝肝膿瘍ドレナージ術(PTAD)13例
超音波内視鏡検査(EUS)(上部・下部・胆膵)99例
超音波内視鏡下穿刺術(EUS-FNA)11例
カプセル内視鏡10例
小腸ダブルバルーン内視鏡検査16例
経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)24例
経皮内視鏡的胃瘻交換術56例

エコー下肝生検(肝腫瘍生検含む)18例
ラジオ波焼灼術(肝細胞癌、転移性肝癌)10例
TACE27例
B型慢性肝炎に対する核酸アナログ治療37例
シメプルビルを含む3剤併用療法8例
C型肝炎に対するインターフェロンフリー治療8例
腹水濾過濃縮再静注法13例

